

主要Q&A

< 全社 >

Q: 2013年3月期第2四半期累計実績の概要は。

A: 2013年3月期第2四半期累計実績は、国内たばこ事業の販売数量の増加、海外たばこ事業の単価上昇とGFB伸長による販売数量の増加等によるたばこ事業のトップライン成長が牽引し、増収増益となりました。

売上収益は前年同期比+6.0%、為替一定ベースの調整後EBITDAは+23.4%、報告ベース調整後EBITDAは+15.1%、親会社の所有者に帰属する四半期利益は+17.5%となりました。

Q: 2013年3月期の業績見込の変更内容は。

A: 売上収益は、為替前提の見直しによる為替のマイナス影響により下方修正しております。

国内たばこ事業における販売数量上方修正、及び海外たばこ事業における総販売数量、GFB販売数量の上方修正、単価上昇効果等により事業モメンタムは堅調に推移していますが、対ドル現地通貨安、対ドルでの円高による為替のマイナス影響によりほぼ相殺されることを見込み、調整後EBITDAについては、当初見込を据え置いております。

為替一定ベース調整後EBITDAについては、事業モメンタムにより対前年で+11.2%の成長を見込んでおります。

一方、営業利益については、固定資産売却益の追加等を見込んだことにより、上方修正いたしました。

親会社の所有者に帰属する当期利益については、営業利益までの上方修正分があるものの、大幅な現地通貨安となった一部市場の適用レート変更に伴う為替差損計上等による金融損益悪化を織り込み、当初見込を据え置いております。

< 国内たばこ事業 >

Q: 2013年3月期第2四半期累計実績の概要は。

A: 国内たばこ事業については、国内紙巻たばこの販売数量増加により、大幅な増収増益となりました。

震災影響を受けた前年同期以降、積極的な新製品の投入、販売促進活動の強化等により、短期間で着実にシェアを回復させ、足元の販売数量は堅調に推移しています。この結果、国内紙巻たばこ販売数量は、対前年+17.0%と大きく増加しました。

自社たばこ製品売上収益は、販売数量の増加により増収となりました。

調整後EBITDAは、販売数量の増加に加えて、前年同期にあった震災損失計上が今年はないことによる増益要因が、費用増の影響を上回り増益となりました。

この費用増は、供給制限を行っていた前年第1四半期に販売促進活動を控えていたことに加え、競争環境激化の中、シェア回復及び更なるブランド・エクイティ強化のための投資を積極的に行ったことによるものです。

Q: 2013年3月期の業績見込の変更内容は。

A: 国内紙巻たばこの通期販売数量見込については、強めに推移している足元までの総需要動向を勘案し、+10億本上方修正いたします。

自社たばこ製品売上収益については、販売数量の上方修正に伴う収益増があるものの、商品構成、国内免税・中国市場での販売数量減少等の影響を見込み、+10億円上方修正を行いました。

調整後EBITDAについては、自社たばこ製品売上収益の増加を主要因に、+15億円上方修正を行いました。

なお、下期は、MILDSEVENのMEVIUSへのブランド進化を中心に、ブランド・エクイティの更なる強化へ向けた投資を積極的に行い、シェア回復を目指してまいります。

<海外たばこ事業>

Q: 2013年3月期第2四半期累計実績の概要は。

A: 海外たばこ事業の2012年1-6月期のドルベース調整後EBITDAは、単価上昇効果とGFB伸長、スーダンでのM&Aによる販売数量の増加により、為替一定ベースで+21.3%成長となりました。一方、為替影響を含む報告ベースでは、ほぼ全ての主要通貨がドルに対して不利に動いたため為替のマイナス影響を受け、+9.6%成長となりました。

Q: 2012年7-9月期の販売動向は。

A: 今期から8月中旬にクローキングしたGryson社の数量を計上しており、Gryson社の統合は順調に進んでおります。

7-9月期は、西南欧を中心として、引き続き景気後退に伴う総需要減少影響を受け、厳しい事業環境となりました。

しかしながら、そうした事業環境下においても、JTIは、引き続きGFBの伸長に加え、スーダン及びGryson社のM&A効果等により販売数量を成長させました。

GFB販売数量は、シリアでの出荷停止、スペイン、イタリアでの総需要減少等の影響があるものの、トルコ、ロシアといった主要市場に加えて、コーカサスやウズベキスタン等のCIS+の様々な新興市場でのWinston, LDの好調により、オーガニックで、対前年同期比+1.4%成長となりました。総販売数量は、ロシアでの低価格帯ローカルブランドの減少継続に加え、総需要減少影響および中価格帯での競争激化等があるものの、M&A効果により、+0.7%成長となりました。M&Aを除いたベースでは、-0.9%となっております。

7-9月期は、主に7月以降顕著になった、スペイン、イタリア等、ヨーロッパでの総需要減少影響、ロシアでの不利な価格差を含む中価格帯での競争激化に加え、一部市場での翌期への期ズレ等により、成長が若干鈍化して見えますが、1-9月期で見ますと、1-6月期の力強い実績により、GFB販売数量は前年同期比+5.1%、総販売数量は+2.6%となっております。

Q: 2012年1-9月期のJTIの実績は。

A: 1-9月期のドルベース自社たばこ製品売上収益は、単価上昇効果とGFB伸長及びM&A効果により、為替一定ベースで前年同期比+12.1%成長となりました。

一方、為替影響を含む報告ベースでは、ほぼ全ての主要通貨がドルに対して不利に動いたため為替のマイナス影響を受け、+4.6%の増収となりました。

Q: 2013年3月期の業績見込の変更内容は。

A: 見込につきましては、9月までの実績を勘案し、GFB販売数量、総販売数量ともに上方修正しております。

GFBについては、西南欧での景気後退により、想定以上の総需要減少等があるものの、コーカサス等のCIS+の新興市場の伸長に加え、トルコでの数量モメンタムが当初想定を上回っていること、及び一部中東市場における販売数量実績が当初の保守的な前提を上回ったこと等から、当初見込みに対して+40億本の上方修正を行いました。

総販売数量は、GFBの伸長に加えて、Gryson社の数量を見込みに織り込んだこと等から、+70億本の上方修正を行っております。

ドルベースの為替一定調整後EBITDAについては、総販売数量及びGFB販売数量見込の上方修正、様々な市場における値上げタイミングや単価上昇効果が当初の想定を上回ったこと、及びGrysonのM&A効果を織り込んだことにより、+410百万ドルの上方修正を行い、対前年+20.4%の成長を見込んでおります。

なお、この+20.4%の成長には、急激なインフレが進行している一部市場におけるプライシング影響を5%程度含んでおります。

報告ベース調整後EBITDAは、当初の想定以上に進行しているドル高現地通貨安の為替のマイナス影響があるものの、力強いビジネスモメンタムにより、+20百万ドルの上方修正を行い、対前年+6.5%成長を見込んでおります。